国立病院機構熊本医療センター

No.144

くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER　KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

本年度も新臨床研修医を迎えました

研修部長
清川　哲志

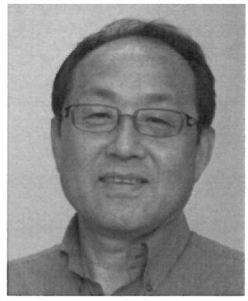
本年度も17名の新研修医を迎えました。単独型として15名、熊本大学のプログラムとして2名です。出身大学は熊本大、産業医大、久留米大、長崎大、佐賀大、宮崎大、鹿児島大、琉球大、順天堂大、藤田保健大と多士済々の顔ぶれで元気いっぱいです。オリエンテーションでは、看護、薬剤、臨床検査、放射線科の部門実習や電子カルテの操作訓練に真剣に取り組んでいました。救急蘇生の講習を受け4月の後半からは救命救急センターでの夜間研修も始まり先輩とともに忙しい救急対応を行っています。

研修プログラムでは最初の1年は2ヶ月ごとに外科、救命、麻酔と3つの内科分野をローテートすることになります。広い分野の忙しい研修となりますが、2年間を通じて患者様としっかり話ができることと全身管理ができることを目標に必要な知識と技術を身につけて行きます。

最初のローテーションを終わろうとしていますので、新研修医はやっと表情が和らぎ病院の業務になじみ始めています。毎週木曜日早朝には研修医セミナーを行っていますが、17名からは医師として仕事をする意気込みと良い意味での緊張を感じています。諸先生方にはいろいろとご指導を受けることも多々あるかと思います。その節はどうぞよろしくお願い申し上げます。

池井聰院長を中心に17名の新臨床研修医

ハッピーリタイア



医法)社団やまもと泌尿器科クリニック
やまもと泌尿器科クリニック
院長 山本　敏廣

宇土市で泌尿器科を開業して9年目になります。旧国立熊本病院にはレジデントに始まり、3度赴任、計13年ほどお世話になりました。勤務医生活の大半を当院で過ごし、泌尿器科医としての研鑽を積ませていただきました。私にとっては故郷みたいな懐かしさを感じさせる病院です。そのせいかつい甘えてしまい、他の病院には紹介し難い、手のかかる患者さんをお願いすることが多いのですが、菊川先生はじめスタッフの皆さんが二つ返事で引き受けていただき大変助かっています。

私は今年で60歳になります。当時いっしょに働いた同世代のスタッフも定年の頃です。退官された後、ある人は第二の職場で働き、またある人は趣味の世界に浸り、またある人は夫婦で旅行を楽しんだりとそれぞれ第二の人生を歩かれているようです。皆さん定年の日に向かっていろいろ考え、悩み、計画を立てその日を迎えられたものと思います。

幸か不幸か開業医には定年がありません。自分の引退の日を自分で決めなくてはなりません。これが簡単そうで大変なようです。永く診ている患者さんや職員、借金のことを考えると簡単に閉院することは出来ないようで、知力体力のある限り診療を続けられ、体調を崩されて引退という先生も多いようです。私はそれでは困るのです。やりたいことが沢山有ります。晴耕雨読の生活、平日のゴルフ、格安旅行、五大陸マラソン大会完走、等々有りますが、一番の夢は僻地での医療ボランティアです。第一線を退いてもまだ元気な先輩や仲間とチームを組み、週単位や月単位の交代で泌尿器科診療のお手伝いが出来ればと考えています。北海道の雪深い診療所も魅力的だし、南の島の診療所もドクターコトーみたいで胸が躍りませんか？少しでも医師不足解消のお手伝いができればよいなと思っています。今は来るべきその日に備え準備を始めたところです。とりあえず体力作りのため暇を見つけては走っています。

最後に熊本医療センターの断らない救急医療は我々開業医にとっても大変力強い味方ですが、皆様が過労で倒れたり、燃え尽きたりしないか心配です。くれぐれも健康に留意されハッピーリタイアの日を迎えられることをお祈り致します。

第3回 二の丸肝臓談話会のお知らせ
（日本医師会生涯教育講座3単位認定）

内　容：1）講演
「眼科医から診たインターフェロンの副作用」　眼科医長　青木　浩則
2）症例検討会
「治療に考慮した症例、興味ある症例、治療上の工夫や問題点など」

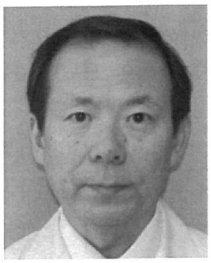
日　時：平成21年6月22日（月）　19：30～21：00

場　所：国立病院機構熊本医療センター　教育研修棟4F会議室

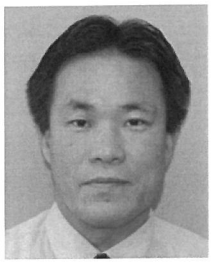
近年、肝疾患患者人口の増加に伴い地域医療連携の重要性が増してきています。当院では平成20年4月よりインターフェロン療法地域連携クリティカルパスを運用し、多くの医療施設との連携が深まりつつあります。この一環として9月に「二の丸肝臓談話会」を発足しました。実施診療に根ざした勉強会を目指しています。年4回の例会と、1回の特別講演会を予定しています。今回、第3回二の丸肝臓談話会を開催しますのでご案内をさせて頂きます。

多数のご参加を歓迎します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター消化器科医長　杉　和洋　TEL：096-353-6501(代表) FAX：096-325-2519



部長
髙木　一孝
小児科一般、小児血液疾患、造血幹細胞移植、小児感染症
小児科専門医
日本小児科学会専門医



医長
森永　信吾
小児科一般、小児血液疾患
造血幹細胞移植、小児免疫
小児科専門医
日本小児科学会専門医

医師
緒方　美佳
小児科一般、小児アレルギー、小児救急
小児科専門医

医師
楠本　優
小児科一般、小児救急

診療内容と特色

子どもの健康上の問題全般（身体および精神的疾患）について、外来、入院で治療を行っています。一般小児診療は呼吸器・消化器感染症が大部分ですが、当科ではとくに小児の血液疾患（白血病、貧血、紫斑病など）の診療に力を入れており、化学療法、造血幹細胞移植や免疫抑制療法などの専門的治療を行っています。また最近増加している食物アレルギーに対しては、入院（日帰り入院）や外来で食物負荷試験を行っています。県下で負荷試験を実施している施設が少ないため多くの患者様が医療機関からの紹介やご家族の希望で受診されています。アナフィラキシーの原因となる食物の同定と食物制限の必要性、それまで続けていた食物制限の解除について評価判定を行い、不必要、過剰な制限にならないよう適切な食事指導をやっています。血液疾患その他慢性疾患で長期の入院を要する学童に対しては、訪問学級の小中学校の先生によるベッドサイド授業が毎日行われています。

診療実績

平成20年の入院は入院総数481名でした。内訳は以下の通りです。

①呼吸器疾患　114名（24%）
肺炎、気管支炎、細気管支炎、クループ症候群、上気道炎など

②消化器疾患　37名（8%）
感染性胃腸炎、ロタウイルス胃腸炎、サルモネラ腸炎、虫垂炎、腸重責など

③血液疾患　33名（7%）
白血病、再生不良性貧血、血小板減少性紫斑病、好中球減少症、ランゲルハンス組織球症、造血幹細胞移植（非血縁骨髄移植）2例

④アレルギー疾患
154名（31%）
気管支喘息、食物アレルギー（食物負荷試験）、蕁麻疹

⑤神経　46名（10%）
てんかん、熱性けいれん、髄膜炎など

⑥事故　17名（4%）
打撲症、誤飲・誤嚥事故、熱中症、溺水事故など

⑦その他（9%）として
川崎病、尿路感染症、心身症、内分泌疾患など

研究実績

小児白血病・リンパ腫の全国的な治療研究TCCSG（東京小児がん研究グループ）、JPLSG（日本小児白血病研究グループ）の参加施設として症例の登録・治療を行い治療成績の向上に努めています。また小児再生不良性貧血治療研究に登録し抗胸腺細胞抗体(ATG)、シクロスポリン(CSA)による免疫抑制療法、造血幹細胞移植を行っています。

厚労省の指定研究「疾患別医療者用/患者用クリティカルパスの行程内容と、患者アウトカムとの関連に関する比較研究（OVCP）」班で小児の市中肺炎の解析を担当しています。

ご案内

患者様のご紹介は、髙木（内線709）、森永（内線794）、緒方（内線632）へ直接お電話頂くか、患者様へ紹介状を持たせて受診して頂いても結構です。ただし、緒方のアレルギー外来は予約制ですので、前もって電話で予約をとって頂ければ有難いです。時間外・休日は小児科宛の紹介状を持参し救急外来を受診して頂くと、当番の小児科医が診察致し必要に応じて入院治療を行います。

医学シリーズ No.163　外　科（No.19）

最近のトピックス

当院における胃癌化学療法の現状

外科医長
宮成　信友

本邦における胃癌に対する化学療法はS1をはじめとする新規抗癌剤の登場で飛躍的に進歩しています。化学療法には、その目的により1）再発・切除不能胃癌に対するもの、2）術後の再発予防に対する補助化学療法、3）治療成績向上を目的とした術前化学療法に大きく分類されます。各々その最終目的は、生存期間の延長であり、あるいはQOLの向上です。施行される治療法は臨床試験においてその効果が証明されてはじめて標準治療法となります。海外をはじめ本邦でも多くの臨床試験から化学療法の有用性は確認されています。2007年以降、無作為化比較試験の結果が報告されており、現時点での標準的な治療が確立されてきています。

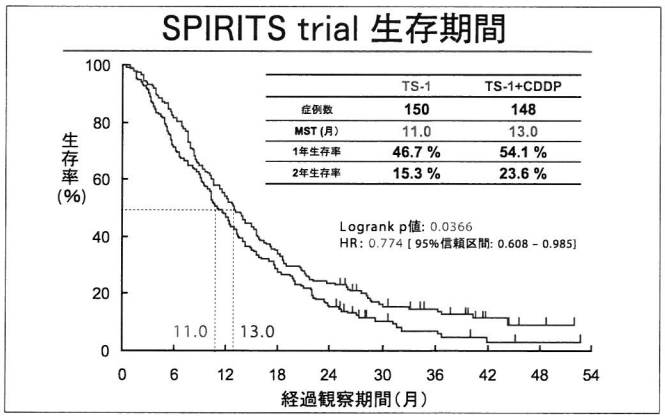
再発・切除不能胃癌に対する1st line 治療としてはこれまで5-fluorouracil（5FU）の持続点滴を含む治療が標準的治療として施行されてきました。JCOG 9912試験では、5FU持続静注と比較し経口内服薬のS1の非劣性と塩酸イリノテカン/シスプラチン(CPT-11/CDDP)併用療法の優越性が検証されました。CPT-11/CDDP併用療法の優越性は証明されませんでしたが、S1の非劣性は証明されました。その結果、経口内服薬であるS1は再発・切除不能胃癌に対する標準的治療のひとつとなっています。ほぼ同時期に、SPIRITS (S-1 plus cisplatin vs S-1 in RCT in the treatment of stomach cancer）試験の結果も報告されています。SPIRITS試験はS1単独療法とS1＋CDDPの併用療法の比較試験で、MSTはS1単独療法が11.0ヵ月で、S1＋CDDPの併用療法が13.0ヵ月であり、1年生存率は各々46.7%, 54.1%でした。血液毒性や食欲不振・悪心などの有害事象は併用療法で多い傾向にありましたが、認容性があることも示さており、再発・切除不能胃癌に対する1st line 治療としてS1＋CDDPの併用療法が、本邦では標準治療の一つとして確立されました。

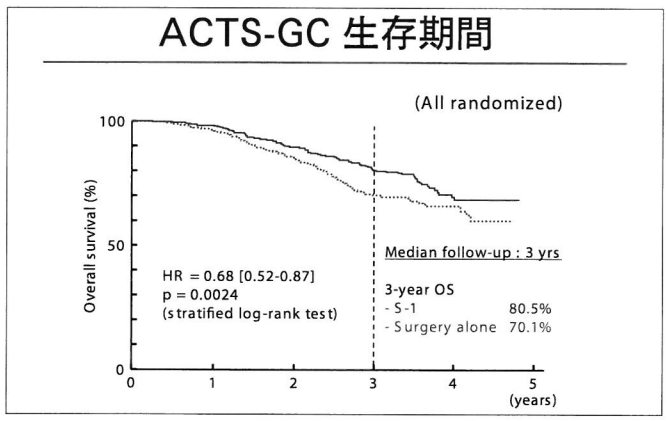
術後化学療法の臨床比較試験では、stage II, III胃癌の根治切除症例に対する手術単独群と術後S1内服（1年間）による補助化学療法群を比較したACTS-GS (Adjuvant Chemotherapy Trial of TS-1 for Gastric Cancer）試験の結果が報告されました。その結果はセンセーショナルなもので3年生存率が手術単独群で70.1%、術後S1内服群で80.5%であり、およそ10%の差が認められました。この結果によりstage II, III胃癌の術後補助化学療法としては1年間のS1内服が推奨されています。

術前化学療法はまだ臨床試験が進行中の段階であり標準治療としては確立されていません。しかしながら胃癌に対して高い奏効率を示すレジメンが登場しており、高度進行胃癌に対して術前投与は術後投与に比較し病巣への薬剤到達性が良好であることが予想され、術前化学療法により腫瘍の薬剤感受性の確認、主病巣の縮小（down staging)、取り残される可能性のある微小転移巣の早期治療、などの効果から、術前化学療法による生存率の向上が期待されています。

現在も、分子標的薬を含めた様々な臨床試験が進行中であり、今後も標準治療は変わっていくものと思われます。

当院においても、臨床試験の結果に準じた最新の化学療法を行っており、高度進行胃癌に対しては術前化学療法も積極的に取り入れています。





治験センターだより

当院における治験の現状について

治験*の空洞化（海外における治験実施が増加し日本国内での治験が減少すること）が懸念される中、治験は国策としてその実施が推進されており、また、近年ではドラッグ・ラグ（欧米で承認されている医薬品が我が国では未承認であって国民に提供されない状況）の解消のために、国際共同治験（諸外国と共同で同時に治験を行うこと）の実施も推進されています。

熊本医療センターでは国立熊本病院時代の平成13年4月に治験センターを設置し、今日まで多くの治験を実施しています。治験センターは臨床研究部長をセンター長とし、治験事務局とCRC（治験コーディネーター：Clinical Research Coordinator）で構成されています。治験センター設置当時は、CRCとして薬剤師1名、看護師2名でしたが、現在では薬剤師3名、看護師2名、検査技師1名とCRCを増員し治験の充実化を図っています。

治験は非臨床試験（動物を用いた試験）を経た薬の候補物質を用いて、第Ⅰ相試験から第Ⅲ相試験まで段階的に行われます。また、治験はGCP（医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令）に基づいて、被験者となる患者さまの人権の保護、安全の保持及び福祉の向上を図り、治験の科学的な質及び成績の信頼性を確保することを目的として行われます。実施に際しては、患者さまへの十分なインフォームドコンセントを行い、患者さまに不利益が生じないよう配慮する必要があります。副作用についても十分に説明を行いますが、不幸にして健康被害が生じた場合は治療と補償（場合によっては賠償）を行わなければなりません。以上のことを踏まえ、治験責任医師・分担医師はGCPとプロトコールを遵守し治験を行っていきます。

そこで、プロトコールの逸脱がないよう治験担当医師をサポートするためにCRCは①同意取得のための補助②併用薬剤・併用療法の可否③有害事象の有無④検査等のスケジュール管理と確認⑤CRF（症例報告書）の作成とその補助⑥治験依頼者のモニタリングへの対応⑦規制当局への対応等、多くの項目について支援しています。

また、治験の質の向上及び症例確保のために、①週1回の治験センターミーティングの開催②治験の事前ヒアリング③IRB（治験審査委員会：毎月開催）承認後のスタートアップミーティング（関連部署を含めた治験説明会）の開催等を行っています。

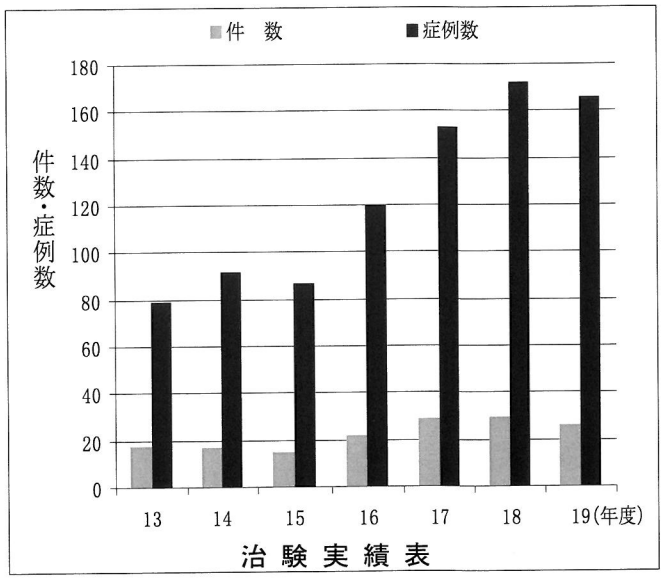
治験を行うには患者さまの同意は勿論のこと、治験責任医師を中心に治験分担医師と関連部署の連携が非常に重要です。近年、当院では救急疾患を含めた入院治験や国際共同治験、当院初の第Ⅰ相試験の受託など、実施にこれまで以上に密な連携と関連部署の協力がなければ実施できない治験が増えつつあります。

また、最近では、治験は実施率ではなく、何例実施したかという実績を治験依頼者（製薬企業）が評価し、治験を依頼してくることが増えつつあります（治験実績は下図参照）。

治験を実施する医療機関として、新薬開発の一翼を担うと共に安全で質の高い治験を被験者に提供しなければないと考えています。

＊）人における試験を一般に「臨床試験」といい、「くすりの候補」を用いて国の承認を得るための成績を集める臨床試験を「治験」といいます。

（CRC　林　淳一郎）



治験実績表

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。
国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス　http://www.hosp.go.jp/~knh/

新任職員紹介

脳神経センター
神経内科
西　晋輔（にし　しんすけ）

4月より神経内科で勤務させて頂いております西晋輔と申します。熊本市出身です。

2年間の初期研修の後、2006年に熊本大学神経内科へ入局しました。翌年、済生会熊本病院脳卒中センター神経内科に勤務し、主に脳梗塞超急性期―急性期の患者の診療をさせて頂きました。昨年は熊本再春荘病院に勤務し、ALS、パーキンソン病、筋ジストロフィーといった神経難病の患者を主に診察させて頂きました。

当院のシステムや電子カルテにもまだまだ慣れておりません。また昨年勤務していた熊本再春荘病院と異なり救急症例の非常に多い病院です。先生方や病棟の方々にもご迷惑をかけることと思いますが、何卒ご指導、ご鞭撻のほどお願い致します。

総合医療センター
内分泌・代謝内科
花谷　聡子（はなたに　さとこ）

4月より勤務させて頂いております内分泌・代謝内科の花谷聡子です。熊本大学附属病院・公立玉名中央病院にて前期研修を行い、昨年度は熊本大学附属病院代謝内分泌内科にて1年間後期研修を行いました。

勤務してまだ数ヶ月ですが、多くの症例を担当させて頂き、指導してくださる先生方やスタッフに恵まれ充実した日々を過ごさせて頂いております。今後、救急疾患を含めさらに忙しくなると思いますが、少しでも多くのことを学び患者様の役に立てるよう精進していきたいと思います。

まだまだ未熟でご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、精一杯頑張っていきたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

外　科
中川　茂樹（なかがわ　しげき）

4月より熊本医療センターに勤務させて頂いております中川です。昨年までは熊本大学医学部附属病院・消化器外科で勤務していました。大学病院では消化器を主に扱っていましたが、熊本医療センターは胸部外科などを含め外科一般を扱い、救急疾患が多い病院です。自己の研鑽と共に地域医療に役立てるよう努力していきます。どうぞよろしくお願い致します。

感覚器センター
皮膚科
江崎　由佳（えさき　ゆか）

4月より熊本医療センターに勤務させて頂いております江崎由佳です。

出身は久留米、明善高校で、平成18年に熊本大学卒業後そのまま熊本に残っています。熊本赤十字病院で2年間初期臨床研修した後、皮膚科に入局し昨年度は大学病院勤務でした。不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけするかと思いますが一生懸命頑張りたいと思いますので宜しくお願い申し上げます。

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。
送付先　〒860-0008　熊本市二の丸1-5
国立病院機構熊本医療センター　『くまびょうNEWS』編集室まで

研修のご案内

第125回　月　曜　会（無料）
（内科症例検討会）
［日本医師会生涯教育講座3単位認定］

日時▶平成21年6月15日(月)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター　教育研修棟4階

日常診療の悩みを解決します。ぜひ、ご参加ください。

1．柏原医長による胸部レントゲン読影
2．持ち込み症例の検討
3．症例検討「左主幹部急性心筋梗塞で救命できた1症例」
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科　本多　剛
4．ミニレクチャー「甲状腺クリーゼの診断」
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科　花谷　聡子

悩んでいる症例、これは情報共有したいと思われる症例をお持ち下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長　清川　哲志　TEL：096-353-6501(代表) FAX：096-325-2519

第94回　三　木　会（無料）
（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）
［日本医師会生涯教育講座3単位認定］
［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定］

日時▶平成21年6月18日(木)19：00～20：45
場所▶国立病院機構熊本医療センター　教育研修棟4階

1．「糖尿病を合併したクッシング病の1例」
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科　花谷　聡子
2．「血糖コントロールに苦慮した1型糖尿病の1例」
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科　児玉　章子
3．「知っていれば助けられる？人食いバクテリア感染症」
天草地域医療センター代謝内科　平島　義彰

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長　東　輝一朗　TEL 096-353-6501（代表）内線705

第98回　救急症例検討会（無料）

日時▶平成21年6月24日(水)18：30～20：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　教育研修棟4階

症例検討「精神科救急」
国立病院機構熊本医療センター精神神経科医長　渡邉健次郎

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

医学生のための初期臨床研修説明会　6月27日開催

期日：平成21年6月27日（土）14：00～18：00
場所：国立病院機構熊本医療センター教育研修棟4F
内容：病院としての新構想説明、臨床研修プログラム説明、病院見学、研修医、指導医との意見交換会など

詳細についてはホームページをご覧下さい。http://www.hosp.go.jp/~knh/ まで

2009年 研修日程表 6月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

6月	教育研修棟1階	教育研修棟4階	その他
1日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
2日(火)			8：00 救急部カンファレンス C 15～19 外科術前術後症例検討会 C 17：30 消化器疾患カンファレンス 心リハ 18：00 血液病懇話会 医局
3日(水)	**18：00～19：30 第57回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会（公開）**		
4日(木)			7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 17：30 超音波カンファレンス 心リハ 18～19 内分泌代謝内科カンファレンス M
5日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
8日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
9日(火)			8：00 救急部カンファレンス C 15：00 外科術前術後症例検討会 C 17：30 消化器疾患カンファレンス 心リハ 18：00 血液病懇話会 医局 19～21 泌・放射線科合同ウログラム C
11日(木)		19：00～20：30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 17：30 超音波カンファレンス 心リハ 18～19 内分泌代謝内科カンファレンス M
12日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
13日(土)	**9：30～19：25 緩和ケア研修会（1日目）**		
14日(日)	**9：00～17：10 緩和ケア研修会（2日目）**		
15日(月)		**19：00～20：30 第125回 月曜会(内科症例検討会)［日本医師会生涯教育講座3単位認定］**	8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
16日(火)			8：00 救急部カンファレンス C 15～19 外科術前術後症例検討会 C 17：30 消化器疾患カンファレンス 心リハ 18：00 血液病懇話会 医局
17日(水)		**13：00～17：00 糖尿病教室**	12～13 糖尿病教室 研食
18日(木)		**19：00～20：45 第94回 三木会（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）［日本医師会生涯教育講座3単位認定］** ［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定］	7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 17：30 超音波カンファレンス 心リハ 18～19 内分泌代謝内科カンファレンス M
19日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
22日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
23日(火)	19：00～21：00 小児科火曜会	18：30～20：30 血液研究班月例会	8：00 救急部カンファレンス C 15～19 外科術前術後症例検討会 C 17：30 消化器疾患カンファレンス 心リハ 18：00 血液病懇話会 医局
24日(水)		**18：30～20：00 第98回 救急症例検討会「精神科救急」**	
25日(木)		19：00～21：00 熊本脳神経疾患懇話会	7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 17：30 超音波カンファレンス 心リハ 18～19 内分泌代謝内科カンファレンス M
26日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
27日(土)	**14：00～18：00 医学生のための初期臨床研修説明会**		10～12 楽しく学ぶ基礎看護技術講座 看学
29日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
30日(火)			8：00 救急部カンファレンス C 15～19 外科術前術後症例検討会 C 17：30 消化器疾患カンファレンス 心リハ 18：00 血液病懇話会 医局

C 病院本館2階カンファレンスルーム　**手** 手術室控室　**別6** 別6病棟　**外来** 小児科外来　**M** ミーティングルーム　**心リハ** 心大血管リハビリテーションセンター　**研食** 教育研修棟食堂　**看学** 看護学校

問い合わせ先　〒860-0008 熊本市二の丸1番5号　国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501（代）内線263　096-353-3515（直通）